

1. 概要

- (1) 日 時： 2012年4月13日(水) 18:40~20:30
- (2) 場 所： 大阪市中央公会堂 B1F 4会議室
- (3) 座 長： 小友(富士通エフサス)
- (4) 書 記： 西濱(西濱防災ネット)
- (5) 出席者：29名(順不同・敬称略)：川口(名古屋工業大学)、日下(住友電気工業)、福島(が
んの子どもを守る会)、柳父(元大阪ガス)、伊藤(FUN)、大館(ユーエス・ジェイ)、田中(グリコ
栄養食品)、西濱(西濱防災ネット)、野原(京セラ)、藤村(竹中工務店)、紅谷(人と防災未来セ
ンター)、山口(インターネットイニシアティブ)、梅田(自営業)、大野(アビームコンサルティ
ング)、小友(富士通エフサス)、佐原(鈴与)、高橋(J SOL)、竹本(サイエンスクラフト)、鶴
谷(奥村組)、西野(京セラコミュニケーションシステム)、西本(アプロ保険)、能任(富士通エフ
サス)、速水(大阪ターミナルビル)、増穂(NECシステムテクノロジー)、鷺山(元パナソニッ
ク)、山野他3名(和歌山県 商工振興課)

2. 議事録

会員の田中氏から「BIA について」と題して話題提供(講演)があり、講演後に意見交換を行なった。

(1) 話題提供

- ・BIA 研究会へ入会の動機について
- ・社内でBCM 推進(BCP 策定)をするが、なかなか受け入れられなかった。
- ・壁にぶつかった時に、ビジネスインパクト分析が出来れば、経営者や現場に対して理解される提案ができると考えた。
- ・当初は事象から入ったが、今は事象にとらわれない内容で出来つつある。
- ・BIA 研究会の活動(平成23年度分)は、4/18日に東京で発表する。
- ・研究テーマはモデル企業(業種)を想定して検討している。
- ・検討内容は、BCP の基本方針、重要業務が受ける被害の想定、工場の被害想定、経営資源の状況分析、復旧時間の検討、代替えの判断基準、生産体制構築など。
- ・具体的な検討の過程では、生産種類や規模も異なり多様な条件があり事象に関係ないBIAを進めるのは難しい。(疑問点で悩む)
- ・BIA の作業手順や考え方を意識して“成功のシナリオ”を作っている。(社長に話しをする時のシナリオ風に)

(2) 意見交換(発者省略)

- ・BIA の範囲で、“中断時の影響の時系列分析”はリスク分析と関係は無いとされているが、どの様に思うか?
- ・リスク想定ぬきにリカバリー方法を考えるには抵抗感を感じる。

- ・昔はリスクを考えていたが、今は考え方が変わっている。
- ・BCAOが活動を始めた時期のリスクは地震であった。
- ・環境が急変した時にどの様に復旧するかは大事だ。
自社のコア事業の強みは何処に在るのか知るためにも分析が必要だ。
- ・中断時の時系列分析とは対策の話しか？。
- ・対策に要する費用も分析し、費用に見合った経営判断が必要。
- ・BIAはBCPを策定するための分析であり対応策では無い。
- ・強み・弱みを見るために会社の“レントゲンを撮る”と考える。
- ・“中断時の影響の時系列分析”は独立していると考える。
- ・止まった時にどの様な影響があるかを定性的・定量的に分析し許容中断時間を把握するプロセスである。
- ・多様なものを一つでまとめるには無理がある。
- ・中断を、時間で評価するのか？、それ以外で評価するのか明確で無い、混同していないか。
- ・当初は事象別に分析していたが、現時点では行なわないことになっている。
- ・中断時間は、免責条件などにより変わる場合もある。多くのケースを考える必要がある。
- ・BIAは周りを説得する材料になる。社内の共通理解が進む。
- ・自律要因と他律要因で求められる要求も変わる。
非常時には通常と同じ製品でなくても良い場合もある。
- ・BIAは周りの人を説得する手法である。社長がトップダウンで決めればBIAは不要。
- ・経営者の判断を変えるための手段としてBIAは有効だ。
- ・BIAにより自社の資源は何かが分かる。
- ・インパクト分析することで代替案見つけに役立つ。
- ・RTGと言う表現は一般的か？、一般（市場）では通じない。
- ・今夏発行される予定（！）の“ISO・・・”では、リスクコミュニケーション、リーダシ
ップの様な一般的な表現が多くなり専門語が少なくなっているようだ。
- ・「中断時の影響」については、重要業務と言うより優先業務と捉えるのが良いのではないか。
など「中断時の影響の時系列分析」の位置付け等について多くの意見が出された。

以上